

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立小中一貫校村山学園 統括校長名：井内 潔

<p>【経営理念】</p> <p>施設一体型小中一貫校の特色を生かし、多くの人との関わりの中で様々なコミュニケーションの場を通じて自立した一人の人間としての「人間力」を育成する学校を目指す。</p> <p>(1) 義務教育9年間での系統的・継続的な指導を見通して、人間力の育成を図る学校</p> <p>(2) 施設一体型の特色を生かし、「理想とする中学校卒業時の生徒像」の具現化に向け、小・中学校教員の「指導観の一貫」を目指す学校</p> <p>(3) 地域・家庭との協働により、コミュニティ・スクールとして信頼される学校</p>
--

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

<p>【学校運営協議会・会長 羽鳥 直美】</p> <p>学校運営協議会（学校評価分）</p> <p>第1回 令和7年 7月16日（水）</p> <p>第2回 令和7年11月20日（木）</p> <p>第3回 令和8年 2月19日（木）</p>

項目	計画・取組			自己評価（令和8年1月20日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達率（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全児童・生徒の基礎的・基本的な学力の確実な定着と学力向上	タブレットPCなどのICT機器を有効活用するとともに、デジタル教科書やデジタル教材を効果的に活用する。	タブレットPCの活用により学力の向上を実感したと回答した児童・生徒の割合が80%以上	72	B	日々の学習指導において、タブレットPCを活用している。しかし、学力向上を実感することに結び付いていない状況にある。	タブレットPCで繰り返し問題を解く活動を毎授業で設定することで、児童・生徒が「できる・分かる」を実感して、自信をもつことができるようにする。	学習することの動機付けが大切であり、その働き掛けをする必要がある。	A
		各教科の学習において、問題練習を行う時間を設定し、問題に繰り返し取り組む。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。	107.5	A	小5国語56.6%（前年56.3%）算数46.8%（前年49.3%）中2国語66.0%（前年51.4%）数学49.8%（前年46.8%）であった。小学校算数のみ下回った。	基礎問題は概ね目標値に達しているが、応用問題は目標値を大きく下回る。基礎的・基本的な内容の定着を更に進めるとともに、応用問題演習を行う時間を充実させる。	学力の向上には読書活動が大切なので、更に力を入れてほしい。	A
豊かな心の育成	人権尊重教育に基づいた、いじめ防止	児童・生徒の生活指導上の情報共有を図るとともに、いじめ防止策を講じ、いじめの早期発見、早期対応を行う。	学校に安心して登校している児童・生徒及び安心して登校させられると回答した保護者の割合が90%以上	90	A	生活指導上の課題について、保護者に綿密に連絡を行ったことで、肯定的な評価であったと考える。	引き続き、保護者との情報共有を充実させるとともに、校内においても報連相を徹底して、組織的な対応が図れるように徹底する。	相手の気持ちを考えさせることを学ばしてほしい。	A
	生命を尊重する心を育む道徳教育の推進	道徳科の学習において、内容項目D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の指導を重視して実施する。	動植物など生命ある物を大切にしていると回答した児童・生徒の割合が90%以上	92	A	道徳科の学習以外でも生命尊重について、日常的に指導している結果が、児童・生徒の実践に繋がっていると考える。	引き続き、教育活動全体を通じて、生命尊重についての児童を充実させ、児童・生徒が動植物などを大切に扱うことができるようにする。	大人になっても、動植物を大切にすることを大切にしてほしい。	A
健やかな体の育成	進んで運動しようとする意識の醸成	休み時間等の外遊びを奨励し、遊びの中で身体を動かす機会をつくる。	すすんで運動しようとしている児童・生徒の割合80%以上	71	B	体力調査の結果からも運動習慣が定着していないと考えられる。	運動の楽しさや面白さを味わうことができる活動を体育で取り入れ、すすんで運動しようとする態度を醸成する。	体育の授業だけでは難しい。国レベルでの取組が必要である。	A
	児童・生徒の体力の向上	なわとび週間や持久走週間、持久走記録会、大縄大会などの取組を行い、運動習慣の確立を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。	69	B	小5・中2の男子は総合評価Aがいずれも0%であった。運動習慣が定着していないと考えられる。	各取組の中で、運動のコツやポイントを児童・生徒が見付けることができるように指導の充実を図る。	指導の中で楽しみながらコツが示せると良い。	A
まちづくり学習の充実	武蔵村山市や地域に愛着をもち、市の発展や課題について考え、問題解決に向けて取り組む児童・生徒の育成	各学年が実施する学習において、武蔵村山市の特長などについて気が付かせ、新聞などにまとめる。また、やってみかんパニーの活動を通じて、市内のみかん農家などとの関りを深め、武蔵村山市の特産についての理解を深める。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えた、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上	67	C	各学年において、まちづくり学習を実施しているが、保護者への周知が足りていないと考えられる。	学校公開でまちづくり学習に関する授業を設定するなどして、保護者に参観していただく機会を意図的に設定する。また、校内掲示を活用して、児童・生徒の取組を視覚化させていく。	主体性を育み、地域のことを知る取組なので、更に情報発信をしていくと良い。	A
学校裁量	講師や地域人材を活用した学習の推進	授業において地域人材を活用し、学習支援に当たることで、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	課題解決に向けて、有効に講師や地域人材の活用が図れたと感じる教員の割合が80%以上	88	A	多くの教員が講師や地域人材の活用が図れたと感じている。	引き続き、地域人材の発掘に努め、学習支援を充実させることで、基礎的・基本的な学力の定着を目指す。	自治会としても協力をしていき、地域の人々と親睦を深められると良い。	A
	学校からの情報発信による家庭・地域との連携	学校だより、学年だより、学級だより及びホームページやXを活用し、計画的に学校の情報を発信する。	学校の情報発信に満足していると回答した保護者の割合が90%以上	83	A	学校からの情報発信が保護者に十分に伝わっていないことが考えられる。	紙面や学校ホームページ、SNSなど多様な方法での情報発信を心掛け、必要な情報が速やかに保護者に伝わるようにする。	更新頻度が高く、素晴らしいと思う。情報を受ける側もしっかりとした対応をしていきたい。	A

※ 到達率 = 達成値 / 目標値